



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 165

2022. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 岩崎仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

理事長再任にあたって

公益社団法人 日本美術教育連合 第7期 理事長 大坪圭輔

此度、令和4（2022）年5月15日と6月5日の二日間にわたって開催されました第12回定時総会及び総会内で開催されました代表理事選出のための臨時理事会で、第7期代表理事（理事長）として再任されました大坪圭輔です。公益社団法人としての美術教育連合の在り方を会員の皆様と共に考え、美術教育が社会に対して果たすべき使命を追及していきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

今、世界は戦乱と対立と混沌に満ちた奈落の縁にあると言えます。Herbert Read（英、文芸・美術評論家、1893-1968）が、『Education through Art』を著してから80年が経過しました。しかし、H. Readの理想は未だ実現していないことを、私たちは実感させられています。自立した個々人の共同によって成立する平和な社会を目指してきた芸術教育は、戦争という暴力の前には無力です。故に、このような時代だからこそ、私たちは今まで以上に子どもたちの未来を考え、よりよき社会を目指す努力を重ねる必要があります。今回のパンデミックと戦争で、私たちがあらためて実感させられたことがもうひとつあります。それは、嘗てRichard Buckminster Fuller（米、思想家、建築家、デザイナー、1895-1983）をはじめとして、世界の科学者や研究者が提唱した「Spaceship Earth」すなわち「宇宙船地球号」が、単なる概念ではなく、実際に現実として存在しているという実感です。戦乱の地はすぐ隣にあり、混沌とする社会は我々の社会なのです。

今回の戦乱と混沌を通して、芸術教育や美術教育の責任は一層重くなったと考えます。戦乱や混沌の対極にある平和な世界とは、人々が豊かな文化芸術を創造し、互いの尊重と理解、共同によって成立するものです。そのような平和な社会を希求する人々の、そして子どもたちの思いこそが、何よりも強い暴力の抑止力となると考えます。そして、その教育振興を社会に提供する公益法人としての日本美術教育連合の役割もまた更に大きくなったと言えます。

第56回 日本美術教育研究発表会2022 案内

日 時：令和4（2022）年10月16日（日）9：00-16：00（予定）

場 所：Zoomオンライン会議上

参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信

主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

後 援：文化庁（申請中）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください。

第12回 定時総会報告

■第12回定時総会（オンライン形式による）結果報告■

理事長 大坪 圭 輔

新型コロナウイルス感染予防に対応し、オンラインで実施いたしました第12回定時総会は、〔第1回目〕令和4（2022）年5月15日、〔第2回目〕令和4（2022）年6月5日の2日間にわたって開催されました。下記に総会記事録を公開いたしますので、ご確認をお願いいたします。尚、総会議案書は連合HPにて開示しております。

公益社団法人 日本美術教育連合 第12回定時総会議事録

（Zoomシステムによるオンライン形式）

- 1 総会開催の決定
〔第1回目〕
令和4年1月23日開催、第6期令和3年度第7回理事会
〔第2回目〕
令和4年5月15日開催、第6期令和4年度臨時理事会
- 2 総会議案及び開催方法の決定
〔第1回目〕
令和4年3月6日開催、第6期令和3年度第8回理事会
令和4年4月10日開催、第6期令和4年度第1回理事会
令和4年4月23日開催、第6期令和4年度臨時理事会
〔第2回目〕
令和4年5月29日開催、第6期令和4年度臨時理事会
- 3 総会開催通知及び議案の公開、郵送による総会開催の告知
〔第1回目〕 令和4年4月11日発行日本美術教育連合ニュース164号に総会開催通知を掲載するとともに、令和4年4月24日にホームページにて議案を公開し、Zoomシステムによるオンライン形式による総会とすることを告知した。
〔第2回目〕 令和4年5月15日に開催した〔第1回目〕総会が時間切れ審議未了となったため、同日臨時理事会を開催し、令和4年6月5日午後2時00分から「令和4年度第12回定時総会（継続）」として〔第2回目〕を開催することを決議した。また、同日令和4年5月15日には、ホームページ上に「令和4年度第12回定時総会（継続）」開催の告知と日時を掲示した。令和4年5月20日からは、全会員に対し往復はがきを送付し、出欠席の確認と委任状の提出について告知した。
- 4 議決の方法
令和4年4月10日開催、第6期令和4年度
第1回理事会承認
Zoomシステムでの発声及び画面の目視によって決する。
- 5 開催日時
〔第1回目〕 令和4年5月15日午後1時00分～午後1時50分
〔第2回目〕 令和4年6月5日午後2時00分～午後3時45分
- 6 開会の言葉
北澤俊之事務局長より開会の宣言があった。
- 7 代表理事挨拶
大坪圭輔代表理事より、第7期理事及び監事の承認と、第6期の事業の実施状況について、総会での議論をお願いするとの挨拶があった。
- 8 総会成立宣言
北澤俊之事務局長より会員数229名に対して、委任状による出席83名、Zoomシステムによる参加者確認による出席者38名、計121名の出席となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり、確認された。

9 議長選出

定款第16条に基づき、小林貴史氏が議長に指名された。

10 議事録署名者指名

代表理事、議長、監事、藤崎典子会員が指名された。

11 審議事項

第1号議案 第7期役員選出の件

①役員選出選挙結果報告 山田一美選挙管理委員会委員長より、総会議案書を基に第7期役員選挙結果について報告がなされた。

②理事選出 本議案の審議において、冒頭より会員の意見表明及び質問が複数回あり、50分余りの時間が経過することとなった。総会終了後に予定していた公益目的事業3の一つである「総会記念シンポジウム2022」の開催時間となったため、代表理事は議長に対して総会の中断を要請し、Zoomシステムのブレイクアウトルームに理事会構成員を招集するとともに、本総会を時間切れ審議未了とし、後日継続して開催することを提案し確認された。理事会構成員が総会に戻ったのち、代表理事より議長及び会員に対して、時間切れ審議未了による総会の後日再開を提示し、議長はこれを承認した。なお、継続総会の開催日時については、急ぎ告知する旨補足がなされた。

その後、同日6月5日に臨時理事会を緊急招集し、第12回定時総会（継続）を6月5日に開催することを確認し、その告知をホームページおよび郵送によって行うこととした。

〔第2回目〕令和4年6月5日午後2時00分～午後3時45分

（「5開催日時」より以下継続）

6 開会の言葉

北澤俊之事務局長より開会の宣言があった。

7 代表理事挨拶

大坪圭輔代表理事より、5月15日開催第12回定時総会〔第1回目〕が時間切れ審議未了となり、第12回定時総会（継続）〔第2回目〕を開催することになったことについて、謝罪があった。また、〔第1回目〕で議論となった事案についての説明があった。

8 総会成立宣言

北澤俊之事務局長より会員数229名に対して、委任状による出席84名、Zoomシステムによる参加者確認による出席者35名、計119名の出席となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり、確認された。

9 議長選出

北澤俊之事務局長より〔第1回目〕と同じく小林貴史氏が議長であることが確認された。

10 議事録署名者指名

北澤俊之事務局長より〔第1回目〕と同じく議事録署名者は、代表理事、議長、監事、藤崎典子会員であることが確認された。

11 審議事項

第1号議案 第7期役員選出の件

②理事選出 議長は、「①役員選出選挙結果報告」については、〔第1回目〕において報告済みであることから、「②理事選出」より審議を再開することを宣した。また、役員の承認については、候補者各人ごとに行い、Zoom画面の挙手数を議長と事務局長が確認して決めることを確認した。

採決の結果は下記の通りとなった。

なお、採決の合計数が、Zoomシステムによる出席者35名に不足しているのは、採決時に接続が切れた出席者やいずれにも挙手を表示しなかった出席者があったことによる。従って、本議事録には議長及び事務局長が目視によって確認した票数を記載した。

大坪 圭輔（重任） 承認（賛成26 反対1 棄権3）

北澤 俊之（新任） 承認（賛成26 反対0 棄権4）

西村 徳行（重任） 承認（賛成29 反対1 棄権3）

三澤 一実（新任） 承認（賛成28 反対0 棄権3）

結城 孝雄（重任） 承認（賛成27 反対0 棄権4）

③監事選出

榎原弘二郎（重任） 承認（賛成27 反対0 棄権4）

宮坂 元裕（重任） 承認（賛成27 反対1 棄権4）

以上の結果を受けて、代表理事は議長に対し、第7期臨時理事会をZoomシステムのブレイクアウトルームにて開催する旨を告げ、総会の休憩を要請した。議長はこれを認め、総会の休憩を宣言した。

第7期臨時理事会においては、代表理事の互選と各局の理事の担当及び運営委員会の構成を確認し

た。

議長は第7期理事会構成員が総会に戻ったことを確認し、総会の再開を宣言した。

④代表理事選出報告 大坪圭輔第7期理事より、総会休憩中の臨時理事会において大坪圭輔理事が第7期代表理事に互選されたことが報告された。

⑤運営委員選出報告 第7期代表理事より、各局の担当理事及び第7期運営委員として16名を委嘱する旨、別紙を基に報告があった。

第2号議案 令和3年度事業報告の件

①第6期活動方針報告 大坪圭輔代表理事より、議案書を基に第6期の活動状況について、活動方針に照らして報告がなされた。

②理事会等事業運営報告 同代表理事より、議案書を基に、令和3年度の理事会等事業運営について報告がなされた。尚、6月5日開催第12回定時総会(継続)が追加される旨補足がなされた。

③公益目的事業1 研究促進事業報告 結城孝雄研究局担当理事より、議案書を基に令和3年度の教育研究発表会を中心とする研究局の活動について報告がなされた。

④公益目的事業2 国際事業報告 西村德行国際局担当理事より、議案書を基に令和3年度の国際会議を中心とする研究局の活動について報告がなされた。

⑤公益目的事業3 啓発・普及事業報告 三澤一実事業局担当理事代行より、議案書を基に令和3年度の造形・美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動について報告がなされた。

⑥美術教育連携交流担当報告 山口喜雄美術教育連携交流担当理事より、議案書を基に令和3年度の講演会、造形美術教育フォーラム等について報告がなされた。

以上について議長は、Zoomシステムによる出席者に諮り、審議の結果、令和3年度事業報告は、賛成多数により原案通り承認された。

第3号議案 令和3年度決算及び監査報告の件

①貸借対照表 西村德行財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表について報告がなされた。

②正味財産増減計算書 同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書について報告がなされた。

③財務諸表に対する注記 同財務担当理事より、議案書を基に財務諸表に対する注記について報告がなされた。

④附属証明書 同財務担当理事より、議案書を基に附属証明書について報告がなされた。

⑤財産目録 同財務担当理事より、議案書を基に財産目録について報告がなされた。

⑥貸借対照表内訳表 同財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表内訳表について報告がなされた。

⑦正味財産増減計算書内訳表 同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書内訳表について報告がなされた。

⑧監査報告 宮坂元裕監事より、議案書を基に監査報告がなされた。

以上について議長は、Zoomシステムによる出席者に諮り、審議の結果、令和3年度決算及び監査報告は、賛成多数により原案通り承認された。

報告事項1 令和4年度事業計画の件

①第7期活動方針 大坪圭輔第7期代表理事より、議案書を基に第7期活動方針について説明があった。

②令和4年度理事会等事業運営計画 同代表理事より、議案書を基に令和4年度理事会等事業運営計画について説明があった。

以上の報告に対して、質疑は特になかった。

報告事項2 令和4年度収支予算について

①令和4年度予算書 西村德行第7期財務担当理事より、議案書を基に令和4年度予算書について説明があった。尚、中小法人、個人事業者のための事業復活支援金を受領した旨補足があった。

以上の報告に対して、議長はZoomシステムによる出席会員に対して、意見等の有無について諮り、吉野榮子会員より、会計状況から会費の値上げを検討してはどうかという意見と、入会に際しての推薦人制度は、入会者増という観点からも不要ではないかという意見が述べられた。これに対して代表理事からは、ともに貴重な意見であるとして、会費の値上げは慎重に検討したいという認識と入会時の推薦者については、第7期理事会に引き継ぎ検討する旨回答があった。

その他

議長はZoomシステムによる出席会員に対して、その他の意見等の有無について諮り、発言等はないことを確認した。

12 議長解任

以上をもって小林貴史議長はすべての議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

13 閉会の言葉

北澤俊之事務局長により閉会の宣言があり閉会した。

第7期役員構成

第7期運営委員の委嘱を行い、下記のような役員構成となりました。局員については、これから推薦委嘱を行います。決まり次第ホームページ及びニュースでお知らせします。

公益社団法人 日本美術教育連合 第7期 理事会・運営委員会 (任期：令和4年6月6日～令和6年5月開催予定第14回定時総会)			
理 事 会			
理 事 長		大 坪 圭 輔	統括
理 事		北 澤 俊 之	事務局担当
理 事		西 村 徳 行	国際局担当(事務局財務担当兼任)
理 事		三 澤 一 実	事業局担当
理 事		結 城 孝 雄	研究局担当
監 事		榎 原 弘二郎	
監 事		宮 坂 元 裕	
運 営 委 員 会			
研究局	理 事	結 城 孝 雄	研究局運営委員長
	運営委員	笠 原 広 一	(国際局運営委員兼任)
	運営委員	小 林 貴 史	
	運営委員	竹 内 晋 平	
	運営委員	立 川 泰 史	論集編集委員長
	運営委員	山 口 喜 雄	
事業局 美術教育 連携交流 担当	理 事	三 澤 一 実	事業局運営委員長
	運営委員	大 杉 健	
	運営委員	岡 田 京 子	
	運営委員	小 池 研 二	
	運営委員	手 塚 千 尋	
	運営委員	長 田 謙 一	
国際局	理 事	西 村 徳 行	国際局運営委員長
	運営委員	笠 原 広 一	(研究局運営委員兼任)
	運営委員	茂 木 一 司	
	運営委員	山 田 猛	
事務局	理 事	北 澤 俊 之	法務担当
	理 事	西 村 徳 行	財務担当(国際局運営委員長兼任)
	事務局長	畑 山 未 央	
	運営委員	岩 崎 仁 美	ニュース担当
	運営委員	大 櫃 重 剛	

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	51	417	△ 366
受取入会金			
受取入会金	30,000	36,000	△ 6,000
受取会費			
受取正会員会費	1,122,000	1,351,000	△ 229,000
受取賛助会員会費	90,000	70,000	20,000
事業収益			
論集広告料	180,000	140,000	40,000
論集掲載料	332,000	451,500	△ 119,500
造形美術養成講座	135,775	85,096	50,679
論集購読料	4,000	62,269	△ 58,269
研究発表会参加	1,000		1,000
受取補助金			
受取寄付金		10,000	△ 10,000
受取利息	3	2	1
雑収益		64,950	△ 64,950
経常収益計	1,894,829	2,271,234	△ 376,405
(2) 経常費用			
事業費			
講師料	80,000	135,000	△ 55,000
旅費交通費	14,032	6,732	7,300
通信運搬費	336,100	192,003	144,097
印刷製本費	886,420	897,159	△ 10,739
賃借料	304,500	302,225	2,275
会議費	14,498	35,563	△ 21,065
委託報酬	189,000	244,300	△ 55,300
雑 費	26,987	129,849	△ 102,862
事業費計	1,851,537	1,942,831	△ 91,294
管理費			
会議費	10,400	9,542	858
旅費交通費		1,900	△ 1,900
通信運搬費	83,241	86,703	△ 3,462
消耗品費	95,040	22,031	73,009
印刷製本費	7,103	73,476	△ 66,373
賃借料	174,500	129,525	44,975
保険料	27,000		27,000
委託報酬	81,000	104,700	△ 23,700
雑 費	15,015	12,400	2,615
管理費計	493,299	440,277	53,022
経常費用計	2,344,836	2,383,108	△ 38,272
当期経常増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
税引前当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
一般正味財産期首残高	3,514,560	3,626,434	△ 111,874
一般正味財産期末残高	3,064,553	3,514,560	△ 450,007
II 正味財産期末残高	3,064,553	3,514,560	△ 450,007

令和3年度 決算報告書の詳細および監査報告書はホームページに掲載

収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,440,000	1,440,000	0	
受取正会員会費	1,290,000	1,290,000	0	注2
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	51,000	0	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	2,387,200	2,387,200	0	
(2) 経常費用				
事業費	1,785,000	1,778,000	7,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会議費	50,000	50,000	0	
賃借料費	280,000	273,000	7,000	注5
委託報酬	210,000	210,000	0	
管理費	432,000	494,000	△ 62,000	
会議費	165,000	165,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	5,000	10,000	△ 5,000	注4
賃借料費	120,000	177,000	△ 57,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	90,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,217,000	2,272,000	△ 55,000	
当期経常増減額	170,200	115,200	55,000	
当期一般正味財産増減額	170,200	115,200	55,000	
一般正味財産期首残高	3,629,760	3,514,560	115,200	
一般正味財産期末残高	3,799,960	3,629,760	170,200	
II 正味財産期末残高	3,799,960	3,629,760	170,200	

注1 新入会員15名として

注2 会員数215名として

注3 啓発事業部養成講座参加費

注4 改選年でないため減額

注5 契約更新年でないため減額

令和4年度 収支予算書の詳細はホームページに掲載

事務局より

■日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座〈第7期〉」について(案内)■

日本美術教育連合理事・事務局運営委員長 三 澤 一 実

事務局では本年度より「造形・美術教育力養成講座」の企画運営に加え「美術教育連携交流事業」も担当することになりました。そこで、本年度、事務局が行う事業については「パラダイムシフトの中でのアート」をテーマとし、2つのイベントを計画することとしました。

2019年から始まったコロナウイルス感染症のパンデミックは日常生活や社会構造まで変革をもたらし、私たちはこの大きなパラダイムシフトの真っ只中にいます。そして、世界のデジタルトランスフォーメーションが急加速し、単にデジタル化はインフラ等にとどまることなくデジタル的な思考が今後ますます重視されていくと言えるでしょう。

一方、文化の多様性を保障するダイバーシティという言葉も日々耳にするようになり、人間同士のアナログ的なコミュニケーションの必要性が今までになく高まっています。この社会変革の中、私たちはどのようにアートを捉え、アートを武器に生き抜いていくか問われているのです。

■第7期「造形・美術教育力養成講座」

昨年までの「越境し拡張する美術」を、「パラダイムシフトの中でのアート」というコンセプトで捉えて全3回の連続講座を開催します。

講座では講師から具体的な事例を紹介していただき、簡単なワークショップを通してこれからの造形美術教育のあり方を考える切っ掛けにしたいと考えます。第一線で活躍されている講師の話と、ワークショップを通して、誰もがわかりやすく楽しい講座を目指します。

開催方法はオンライン開催を念頭に、状況や内容によっては対面とオンライン参加のハイブリッド方式での開催も検討します。オンライン開催による講座は、物理的な条件により今まで参加できなかった人も参加が可能となり、多くの方に参加していただきたいと考えます。詳細は今後ホームページに公開しますので随時ご確認ください。

- 名 称 日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座」第7期
- 期 間 令和4（2022）年10月以降 令和5（2023）年3月末まで。全3回
- 内 容 第1回「ファッションデザインとアート」第2回「コミュニケーションを生み出す新たな取り組み」第3回「ジェンダーとアート」を計画しています。
- 参 加 費 有料
- 参加方法 オンライン申し込みによる。次号連合ニュースとHPにて参加案内を致します。
- 参加人数 各講座30名を予定
- そ の 他 全3回の内2回以上の参加者については「造形・美術教育力養成講座修了認定書」を授与します。（要申請）

■美術教育連携交流事業

先が見通せない世の中ですが数年後には学習指導要領の次期改訂に関わる作業が始まります。そこで、今、そしてこれからの時代をどのように捉えていくべきかを、教育的視点と芸術的視点の2方向から共に考えていくシンポジウムなどを企画する予定です。詳細はHP等でご確認ください。10月以降に開催予定。

研究局より

■第56回 日本美術教育研究発表会 2022■ 【一次案内】

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結 城 孝 雄

かつて、リードが記したように人の感性が働かなくなると戦争が立ち現れる、今の世界情勢が不穏な時期において芸術の果たす役割がこれまでになく重要であると言えるでしょう。私たち自身も感性を研ぎ澄ますために美術教育を推進することを求められているように思います。

本連合は1965年InSEA 東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、これまで途切れることなく今年で56回目の研究大会を迎えます。今年度も、COVID-19の影響下、対面の可能性も検討しましたが、オンライン リアルタイム配信による研究発表会を実施することを決定しました。

従来の口頭発表（発表20分+協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分+協議25分）3コマも継続実施いたします。本会での発表は、『日本美術教育研究論集No.56 2023』への投稿資格となります。これまでの研究発表者は日本各地にわたり、各学校教育の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、海外（韓国・中国・メキシコ）と多彩な内容でした。「美術を通じた人間形成」と教育に熱意ある方々の研究発表とご参加を心よりお待ちしております。

■ 参 加 要 項 ■

- 開催日時： 令和4（2022）年10月16日（日） 9：00～16：00（予定）
- 会 場： ZOOMオンライン会議上参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信
- 参加費等： 参加費500円（概要集代として）事前申込みは、必要で、先着150名、会員以外の方でも参加できます。詳細はHPにて、9月上旬告知
『日本美術教育研究発表会 2022概要集 web版』を配信いたします。
- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援： 文化庁（申請中）

研究発表申込 WEB入力期限8月21日（日）23：59

- 発表資格： 共同発表者も含め、会員であること。入会には本会会員1名の推薦が必要です。新規入会希望者は「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局長宛てに送信ください。身近に会員がいない場合は、下記の間合先にご相談下さい。入会時に、入会金3000円および本年度会費6000円の郵便振り込みが必要です。
- 発表時間： 〈通常口頭発表〉20分質疑応答5分移動・準備15分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分+質疑応答 25分移動・準備15分〔役員会で選定〕
- 発表区分： I群・II群・III群の3区分があり研究発表申込の際にどれかを明記して下さい。

I 群：理論・実践研究論文（査読有、投稿時に英文のサマリーが必要です）

II 群：実践研究報告等（査読有、題目のみ英文標記）

III 群：研究ノート（査読有、題目のみ英文標記）

発表方式：プレゼンテーションソフトを用いたオンライン会議による発表。

発表申込：申込WEBサイトへの入力 期限厳守：2022年8月21日（日）23：59

WEB サイト名「第56回 日本美術教育研究発表会2022 研究発表申込」

<https://peatix.com/event/3304117/view?k=3438db9e6c84a5671f1c59b1607385c1548>
beece

サイトを開き「*」必須項目を記入します。

- | | |
|--|---|
| 1) お名前 | 11) 公益社団法人 日本美術教育連合の会員資格の有無 |
| 2) ふりがな | 12) 発表区分 I 群、II 群、III 群 |
| 3) メールアドレス | 13) モジュール発表希望（あり、枠に余裕あればあり、なし） |
| 4) 郵便番号 | 14) 発表概要文 600字以内の提出
info@insea-in-japan.or.jp |
| 5) 都道府県 | 15) 勤務先・職名（学生・院生は学校名・学年・専攻名
正式名称） |
| 6) 住所 | 16) 発表者全員の所属・氏名（氏名は和英表記 多数も連動表記） |
| 7) ビル・マンション名 | 17) 発表題目／和英表記 |
| 8) TEL | 18) 同一データ、資料に基づく研究発表、投稿論文があれば、学会名、題目、年月を記載ください。該当しない場合も無し |
| 9) 所属／役職 | 19) メッセージ（特になし、記入は300字以内） |
| 10) 発表時使用ソフト（power point・key note・google slide他） | 入力完了しましたら、返信メールが届きます。
<u>必ずご確認ください、未完了の場合があります。</u> |

概要文： E-mailの送付先：info@insea-in-japan.or.jp【氏名・所属（正式名称） 題目・概要文600字】

E-mailの件名に「●連合発表2022申込「氏名」」とお書き下さい。

E-mailの送信後10日後以内に受付確認の返信がない場合は念のため再度送信して下さい。

発表時程： 9月下旬発行の『連合ニュース166号』に掲載し、会員に送付する予定です。

問合せ先： 研究局運営委員長 結城孝雄 takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

事務局長 畑山未央 mio.h1226@gmail.com

※昨年度 研究発表を行なったが投稿未了または、取り下げ論文については、2年間の提出資格を有します。

美術教育連携交流担当・国際局報告

公益社団法人日本美術教育連合主催

■2022年定時総会記念シンポジウムの記録■

日本美術教育連合 国際局運営委員長 西村 德行



- 演 題 美術教育から国際交流を考える
 □日 時 令和4（2022）年5月15日（日）
 □場 所 Zoomオンライン

公益社団法人日本美術教育連合はInSEA（国際美術教育学会）の加盟団体で1965年のInSEA「国際美術教育東京会議」以来、1998年のInSEA「アジア地区会議東京大会」及び2010年のInSEA「国際会議大阪大会」を始めとして数多くの美術教育関係者が、欧州・アジア等で開催される国際会議に参加し、口頭発表やワークショップを行う支援をして参りました。近年は、InSEAに限らずオンラインを用いた国際交流の気運が各国で高まり、美術教育を通じた試みが様々な形で行われて斯界の関心を集めています。

今回の総会記念シンポジウムは、「美術教育から国際交流を考える」と題し、未来に向けた国際交流の可能性について語り合う機会にしたいと企画いたしました。シンポジウムは山口喜雄美術教育連携交流担当理事の主旨説明にはじまり、福本謹一氏の豊富なエピソードを交えながらのゲストオープニングトーク、第1部では江原貴美子氏と山田猛氏から、国際交流の事例をそれぞれご紹介いただきました。また第2部ではInSEAアジア地区評議員の佐藤真帆氏から、アジア地域を中心としたInSEAの活動についてご講演いただきました。アフタートークではゲストトークの茂木一司氏から、共生社会の基盤作りとなるアート教育の可能性についてお話しいただき、長田謙一美術教育連携交流担当運営委員の閉会の辞でシンポジウムは盛況の内に閉会となりました。

なお詳細な報告は令和5（2023）年3月末刊行の『日本美術教育研究論集No.56』に掲載予定です。

本報告では、ご登壇いただいた全9氏のお写真とご所属、シンポジウムでの演題あるいは発言主旨のみご紹介いたします。なお事前申し込みの計50名の所属所在、校種他は後頁に記載しました。

開会の辞

□大坪 圭輔 おおつぼ けいすけ



武蔵野美術大学教授

公益社団法人日本美術教育連合理事長

主旨説明

□山口 喜雄 やまぐち のぶお



元宇都宮大学教授

公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当理事

主旨説明：美術教育連携交流担当の事業紹介、《公益化10周年記念シンポジウム》第2部発表者の主な発言、連合役員のInSEA大会の参加・発表一覧、国際交流研究の諸課題

ゲストオープニングトーク

□福本 謹一 ふくもと きんいち



兵庫教育大学名誉教授

兵庫教育大学先端教職課程カリキュラム開発センター特命教授

「私の国際交流アラカルト：InSEAを中心に」：研究発表デビュー、海外の研究発表は危険と隣り合わせ、言葉のハンデを何でかばうか、実践的な国際共同実践プロジェクトを進める、世界大会案内はジョークで！、世界大会（大阪大会）準備は薄氷を踏む思い

第1部**国際交流の事例紹介**

□江原貴美子 えはら きみこ



港区立筭小学校教諭

事例紹介①「アーティストとの交流を通して」：『Frequencies Project』（アーティスト・美術館との連携）、『アートさんぽ』（地域との連携）、『紅花染め』（日本語学級・美術館との連携）、『黄金の林檎』（大学・アーティストとの連携）

□山田 猛 やまだ たけし



東京造形大学教授

公益社団法人日本美術教育連合事務局局長

事例紹介①「国際協力・美術教育の視点から」：海外の教員養成校・美術大学・美術館・日本人学校における国際協力実践、教育実習指導・授業・研究会における国際交流、人類共通言語としてのART、国際協力・美術教育の知見から国際交流に通底するキーワード

第2部**講演**

□佐藤 真帆 さとう まほ



千葉大学准教授・InSEAアジア地区評議員

公益社団法人日本美術教育連合国際局局長

「InSEA（国際美術教育学会）紹介・アジア地域の活動を中心に」：InSEAの組織および活動、アジア地域評議会、ウェブセミナーおよびWorld Forum2022、日本語で読めるようになったInSEAホームページ紹介

アフタートーク

□茂木 一司 もぎ かずじ



跡見学園女子大学教授・元InSEAアジア地区評議員

公益社団法人日本美術教育連合国際局運営委員

「多様性の難しさと大切さ～美術教育が実現すべきインクルーシブ社会の基盤づくり」：日本人には“多様性”のレッスンがもっと必要！、現代のアート/教育の在り方、世界は最初から（誰もが）多様！、アート教育は共生社会の基盤作りになる！

（アフタートークメンバー）福本謹一氏・江原貴美子氏・山田猛氏・佐藤真帆氏

閉会の辞

□長田 謙一 ながた けんいち



東京都立大学客員教授

公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当運営委員

司 会

□西村 德行 にしむら とくゆき



東京学芸大学准教授

公益社団法人日本美術教育連合国際局理事

参加者50名の内訳				
会 員	32	非会員	18	校種・所属
所属所在（12都県）				幼保子 2
				小学校 5
北海道	1	神奈川	9	中学校 5
				高 校 1
青 森	1	京 都	1	特 支 1
				高 専 1
埼 玉	1	大 阪	1	短 大 1
				大 学 20
千 葉	3	兵 庫	1	行 政 3
				美 術 館 5
愛 知	1	和 歌 山	1	出 版 社 1
				院 生 2
東 京	29	大 分	1	無 所 属 3

□運 営

（役員氏名／敬称略）

企 画

山口喜雄・橋本光明・長田謙一
（美術教育連携交流担当）

西村德行・仲瀬律久・直江俊雄

茂木一司・佐藤真帆（国際局）

藤崎典子（事業局）

広 報

理事会・運営委員会構成員

Zoom 設定

結城孝雄

顔 写 真

本人提供

編 集

西村德行

事務局より

■事務局便り■

事務局長 畑 山 未 央

□会員の異動（敬称略）

〈退会者〉橋本 光明

（これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました）

〈入会者〉有田 洋子

□定時総会「出欠はがき」返送のお礼

5月15日及び6月5日（継続）に開催された令和4年度 第12回定時総会に関わる出欠はがきの返送にご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで総会議事録にありますように、無事総会を成立させることができました。ここに改めて会員みなさまのご協力に感謝申し上げます。

□令和4年度（2022年度）会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

※（公社）日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。

令和4年度会費6,000円 を 納入してください。納入期限 令和4（2022）年8月19日（金）

【郵便振替】

（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- * 同封の振り込み用紙をご利用ください。（恐れ入りますが手数料はご負担ください。）
- * 当連合からお送りする振込み票には、確認のために次年度分の納入会費が記載されています。
- * 過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いで、すでに納入済みの方には失礼をお許しください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 北澤 俊之

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科

TEL&FAX：03-3945-8568（研究室）

E-mail：kitazawa@toyo.jp